

カモメと雀の会 特別会報 9月2週号 高齢社会にどう対応するか

発行 2024.9.4

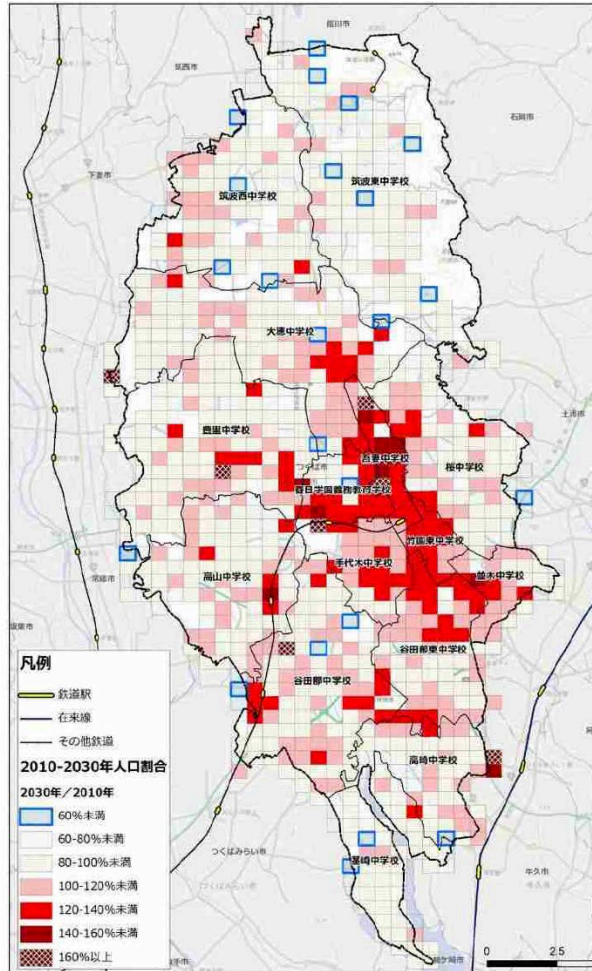


図 2010~2030年地域別人口増減割合
出典: つくば市未来構想

高齢化率が相対的に高い地域

地域名	総人口	65歳以上人口	高齢化率
あしび野	333	196	58.9
宝陽台	1260	695	55.2
北太田	151	80	53.0
森の里	2701	1430	52.9
桜が丘	885	464	52.4
城山	953	493	51.7
桜ニュータウン	1230	636	51.7

つくば市オープンデータ地域：年齢別人口統計より

若い世代の経済的負担を軽減し、未来を共に支える社会へ

左図はつくば市の人口増減の割合を地域別に現したものです。つくば市の中央は人口が増加し、周辺部は人口が減るとともに、高齢者の割合が増えています。市域によっては高齢化率が50%を超えているところもあります。このように、同じつくば市であっても地域によって人口構成が違っていたり、そのために若者が多い地域と高齢者が多い地域では抱える問題の地域住民の関心度も違ってきます。

若者の多いところでは、例えば子育ての問題であったり、子供の教育に関する問題に対する関心度が高いでしょう。一方で、高齢者が多い地域では、これまでもこの会報で何度も取り上げてきたことですが、高齢者の買い物や病院等の施設にいくための足の問題だったり、高齢者同士が例え一人暮らしであっても安心して暮らせるように支え合えるようにするためにどうしたらいいかというような問題への関心が高いと言ったことがあるでしょう。

つくば市民全体の生活の安定とか安心、暮らしやすさといったことを考える時に、どちらの課題を優先して取り組むべきでしょうか。わたしたちの主張は、どちらかを優先するのではなく、これらを一体として考えるべきということです。どちらかを優先するという考え方は無用な世代間対立を生み出すだけです。

日本の若い世代は、生活費や子育ての負担に加え、親世代の生活や介護を支えるという現実と直面しています。さらに、消費税や社会保障費の増加により、経済的負担がますます大きくなっています。一方で、高齢者世代は比較的安定した年金や医療制度に支えられているため、世代間の経済格差が拡大しています。このままでは、若い世代が将来に希望を持たず、未来を切り拓く力を失ってしまう恐れがあります。

しかし、若い世代が親の生活や介護に追われることなく、経済的な自由を取り戻すことは、社会全体の発展に不可欠です。高齢者同士が支え合う共助の仕組みを強化することで、若い世代が自らの生活や子育てに専念できるようになれば、経済の活性化が促進され、次世代への投資も進むと考えられるからです。

